

13号

任主 師團長 參謀長 參謀長 副官部

關作命第五七七號

極秘

關東軍命令

三月十七日午後四時
於新京軍司令部

一鐵道第三聯隊長ハ左ノ區間ニ
一日平均輸送能力各々百噸ヲ
目途トスル輕便鐵道(十シ得レ
ハ汽罐車式已ムヲ得サレハ手
押式ヲナルヘク速ニ敷設スヘ
シ

綏芬河、東甯間

梨樹鎮、半截河間

陸軍部
9.3.20
付文

一 關東軍野戰兵器廠長ハ右ニ要
 スル輕便鐵道材料ヲ鐵道第三
 聯隊ニ交付スヘシ
 二 第十師團長ハ最寄軍隊ヲシテ
 第一項鐵道工事ノ掩護其他ニ
 關シ鐵道第三聯隊ニ協力セシ
 ムヘシ

關東軍司令官 菱刈大將

下定法 3E、兵工廠、100三電報、後印刷送付
 通報先 部次 14D、D、K、K、19S、29S、39F、M、司、已、站、因、極、極、極
 多哈奉告

參謀部

電報翻譯用紙

電報

昭和九年三月一九日 午前二時四十分

發着番號

14

參謀長宛 發信者 關東軍參謀長

本文

關參一電五二三

關作命第五七八号

關東軍命令於新軍司令部

關東軍自動車隊長ハ 關作命第五六八号ニ依

リ熱河省ニ派遣シアル自動車一中隊ヲ其ノ任

務終了後第七師團長ノ指揮下ニ入ラシム

下達法 電報後印刷送附

終



師團長 參謀長 參謀甲 參謀乙 參謀 副官部

主任

14

陸軍

關東軍命令

五七五

號

極秘

關東軍命令

三月三日午前九時
於新京軍司令部



一、滿洲國內現下二於ケル治安其
 他一般ノ情勢ニ鑑ミ四月一日
 以降軍ノ部署ヲ變更セシトス
 以配置概要附圖ノ如シ
 二、第十師團長ハ東地區防衛司令
 官トシリ擔任地域内ノ治安維持
 持ニ任スルノ外東寧綏芬河平
 陽鎮及富錦附近ニ各一部ノ兵

カヲ配置シ蘇滿國境ノ警備ニ
任シ其他ノ部隊八十シ得ル限
リ之ヲ鐵道沿線ニ集結シ隨時
出動シ得ルノ準備ニ在ルヘシ

關作命第五五四號ニ依リ配屬セル裝甲列車ニ
裝甲軌道車三ヲ四月一日以降第二獨立守備隊
ニ配屬スヘシ

内ノ治安維持ニ任スルノ外黒
河附近ニ一部ノ兵力ヲ配置シ
蘇滿國境ノ警備ニ任シ其他ノ

カヲ配置シ蘇滿國境ノ警備ニ
任シ其他ノ部隊ハ十シ得ル限
リ之ヲ鐵道沿線ニ集結シ隨時
出動シ得ルノ準備ニ在ルヘシ
三、第十四師團長(軍豫備隊及新京
警備隊)ノ派遣故ノ如シハ北地
區防衛司令官トナリ擔任地域
内ノ治安維持ニ任スルノ外黒
河附近ニ一部ノ兵力ヲ配置シ
蘇滿國境ノ警備ニ任シ其他ノ

部隊八十シ得ル限リ之ヲ鐵道
沿線ニ集結シ隨時出動シ得ル
ノ準備ニ在ルヘシ

關作命第五五四號ニ依リ配屬セル裝甲列車及
裝甲軌道車各一ヲ四月一日以降第三獨立守備
隊ニ配屬スヘシ

ニ任スルノ外三河及滿洲里附
近ニ一部ノ兵力ヲ配置シ蘇滿
國境ノ警備ニ任セシムヘシ
騎兵一旅團ヲ兆南附近ニ位置



關東
三月
四日

セシムヘシ

出動準備ニ關シテハ遺憾ナキ

ヲ要ス

曩ニ配屬セル筈十四師團ノ部

隊ハ三月盡日迄ニ之ヲ原所屬

ニ復歸セシムヘシ

關東命筈五五四號ニ依リ配屬セル裝甲軌道車

シニ四月一日以降筈三獨立守備隊ニ配屬スヘ

紅井及同地域内ニ於ケル鐵道

奉山線ヲ除ク及重要通信諸施

kk

談ノ保護茲之カ工事掩護ニ任
スルノ外古北口馬蘭峪及建昌
營等長城重要關門附近ノ要点
ニ一部ノ兵力ヲ配置シ支那側
へシ
停戰協定遵守ノ情況ヲ監視ス
出動準備ニ關シ遺憾ナキヲ要
ス
曩ニ配屬セル第三獨立守備隊
ノ部隊ハ三月盡日迄ニ之ヲ原

所屬ニ復歸セシムヘシ
自働車三中队ハ配屬故ノ如シ
六、第一獨立守備隊司令官ハ南地
區防衛司令官トナリ擔任地域
内ノ治安維持ニ任スルノ外主
力ヲ以テ南滿洲鐵道株會社
線一部ヲ以テ奉山及瀋海線
擔任地域内重要通信諸施設ノ
保護ニ任スヘシ
歩兵約一大隊ヲ以テ隨時出動

シ得ルノ準備ニ在ルヘシ
 其司令部ハ奉天ニ位置スヘシ
 七、新京警備司令官(指揮下部隊故
 ノ如シ)ハ從來ノ任務ニ服スル
 ノ外中央地區防衛司令官トナ
 リ其擔任地域内ノ治安維持並
 重要通信諸施設ノ掩護ニ任ス
 軍豫備隊ト寛城子及孟家屯無
 線電信所掩護ニ關スル任務交

独立守備
上協定

代八四月一日トス

前諸項防衛司令官ハ治安維持

ニ關シ擔任地域内ニ於ケル隸

下若ハ指揮下部隊ニアラサル

日滿軍警ヲ區處スルコトヲ得

九第ニ獨立守備隊司令官ハ四月

一日以降主力ヲ以テ京圖線及

拉賓線ノ保護並東地區ニ於

ケル新設鐵道及重要通信施設

工事ノ掩護ニ任スルノ外一部

ヲ以テ吉海線ノ保護茲北滿鐵
道東及南線ノ交通維持ニ任ス
ヘシ
軍豫備隊ト北滿鐵道南線主要
列車警乗ノ任務交代ハ四月一
日トス
其司令部ハ新站ニ位置スヘシ
十第三獨立守備隊司令官ハ主力
ヲ以テ四洮々昂齊北賓北線ノ
保護茲北地區内ニ於テル新設

鐵道及重要通信施設並京兆線
ノ工事掩護ニ在スルノ外一部
ヲ以テ北滿鐵道西線ノ交通維
持ニ任スルシ
軍豫備隊ト京兆線工事掩護任
務ノ交代ハ四月一日トス
其司令部ハ昂々溪ニ位置スル
其獨立守備隊ノ鐵路巡警ニ對ス
ル指揮權ニ關シテハ關作命筭

五二六號ニ依ル

其旅順要塞司令官ハ旅大地區防

衛司令官トナリ其擔任地域ノ

防備ニ任スヘシ

之カ爲要スレハ旅順重砲兵火

隊ヲ區處スルコトヲ得

其關東軍飛行隊長ハ其偵察飛行

隊ヲ以テ齊々哈爾工事完了迄

一部ヲ錦州若ハ奉天ニ戰鬥飛

行隊ヲ以テ哈爾賓ニ又司令部

及爆撃飛行隊ヲ以テ新京(爆撃)飛行隊ハ兵舎完了ト共ニ公主嶺ニ移轉スニ位置シ各兵團ノ實施スル討伐行動ニ協力スルノ外出動準備ノ完整ニ努ムヘシ

西電信第三大隊長ハ軍内及軍ト軍外トノ主要通信連絡ニ在スルノ外一部ヲ以テ隨時出動シ得ルノ準備ニ在ルヘシ

五軍豫備隊戰車第三大隊野戰重
 砲兵第九聯隊高射砲第二大隊
 旅順重砲兵大隊關東軍自動車
 隊缺如部隊故ノ如シ及鐵道第
 三聯隊ハ各現在地ニ在リテ出
 動準備ノ完整ニ努ムヘシ
 共關東憲兵隊司令官ハ本來ノ任
 務ニ服スル外在滿日本警察諸
 機關ヲ統一區處シ滿洲國內ノ
 治安勤務ニ任シ且軍隊ノ行動

ヲ補助スヘシ
支關東軍鐵道線區司令官ハ滿洲
國內ニ於ケル軍事輸送ヲ處理
スルノ外軍事輸送ニ關スル作
戰準備ノ完整ニ努ムヘシ
大關東軍兵若司令官ハ軍内ニ於
ケル兵裝補給業務ヲ除之業務
ヲ處理スヘシ
大關東軍野戰兵器廠同航空廠及
關東陸軍倉庫長ハ各主管事項

二關シ軍内ノ補給及修理業務
 二任スルノ外作戰準備ノ完整
 二努ムヘシ
 二各地衛戍病院長ハ各々其本来ノ
 業務ニ従事スルノ外救護班若
 ハ救護員ヲ以テスル出動準備
 ヲ完整シアルヘシ
 三三月盡日ヲ以テ關東軍假豫備
 馬廠ノ編成ヲ解ク
 關東軍臨時病馬廠長ハ現在任務

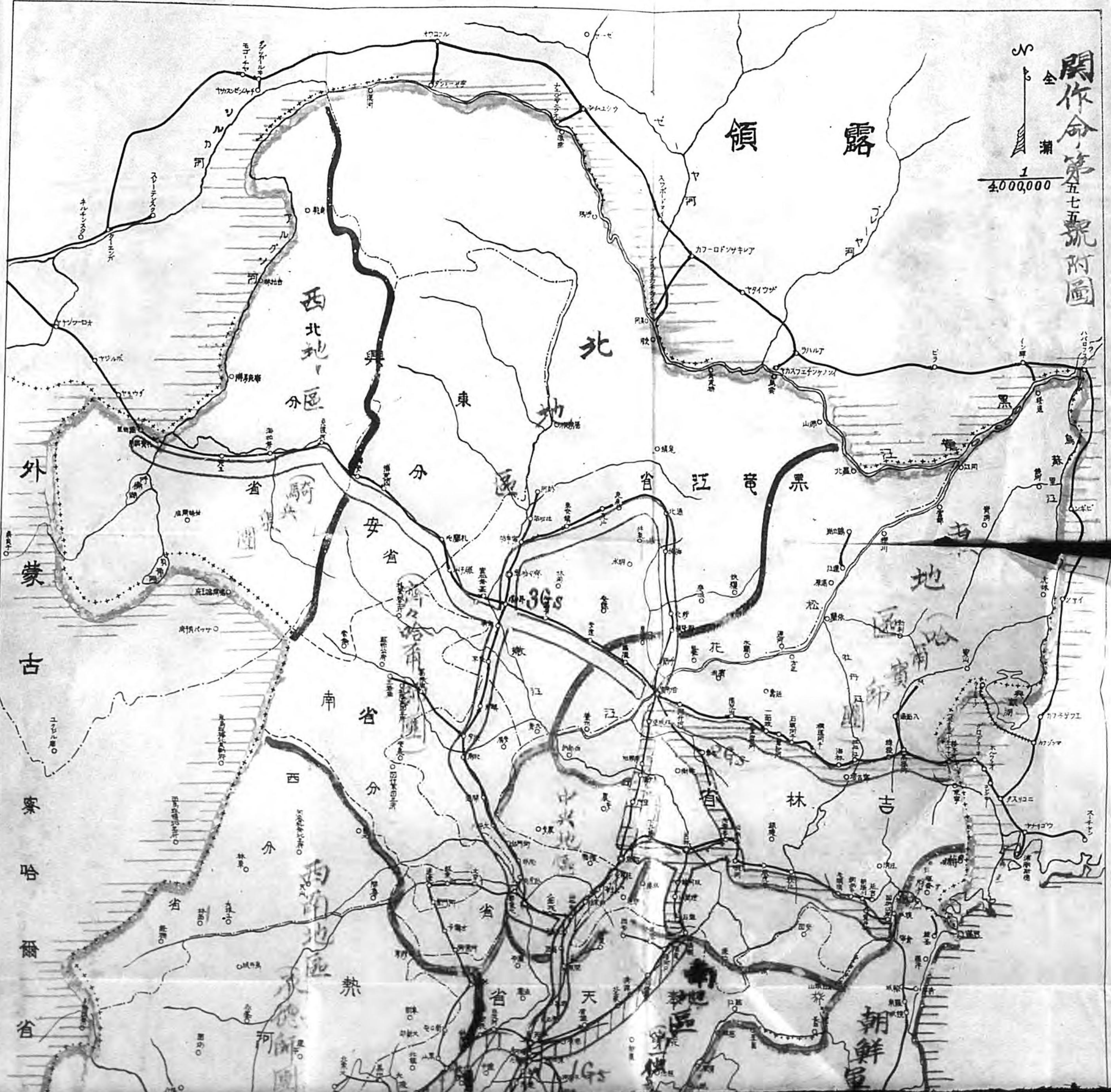
ヲ續行スルノ外四月一日以降
關東軍假豫備馬廠ノ業務ヲ繼
承スヘシ
奉天ニ支廠ヲ開設スヘシ
三無線電信教習所、軍犬育成所及
軍用鳩育成所長ハ現任務ヲ續
行スヘシ
主多田少將ハ全滿洲ヲ所要ノ警
備地區ニ區分シ各地區ニ所要
ノ滿洲國軍隊ヲ配置シ同國軍

通報先

內、衣、野、板、板、板、板、板、
部、次、管、哈、奉、熱、吉、有、
朝、駐、北、海、軍、
印、刷、送、付

關作命第五七五號附圖

全 露 1/4,000,000



領 露

北

西北地區

東

地

分 區

省 江 竜 黒

地

區

省

林

吉

南

省

分

西南地區

熱

省

天

朝鮮

外 蒙

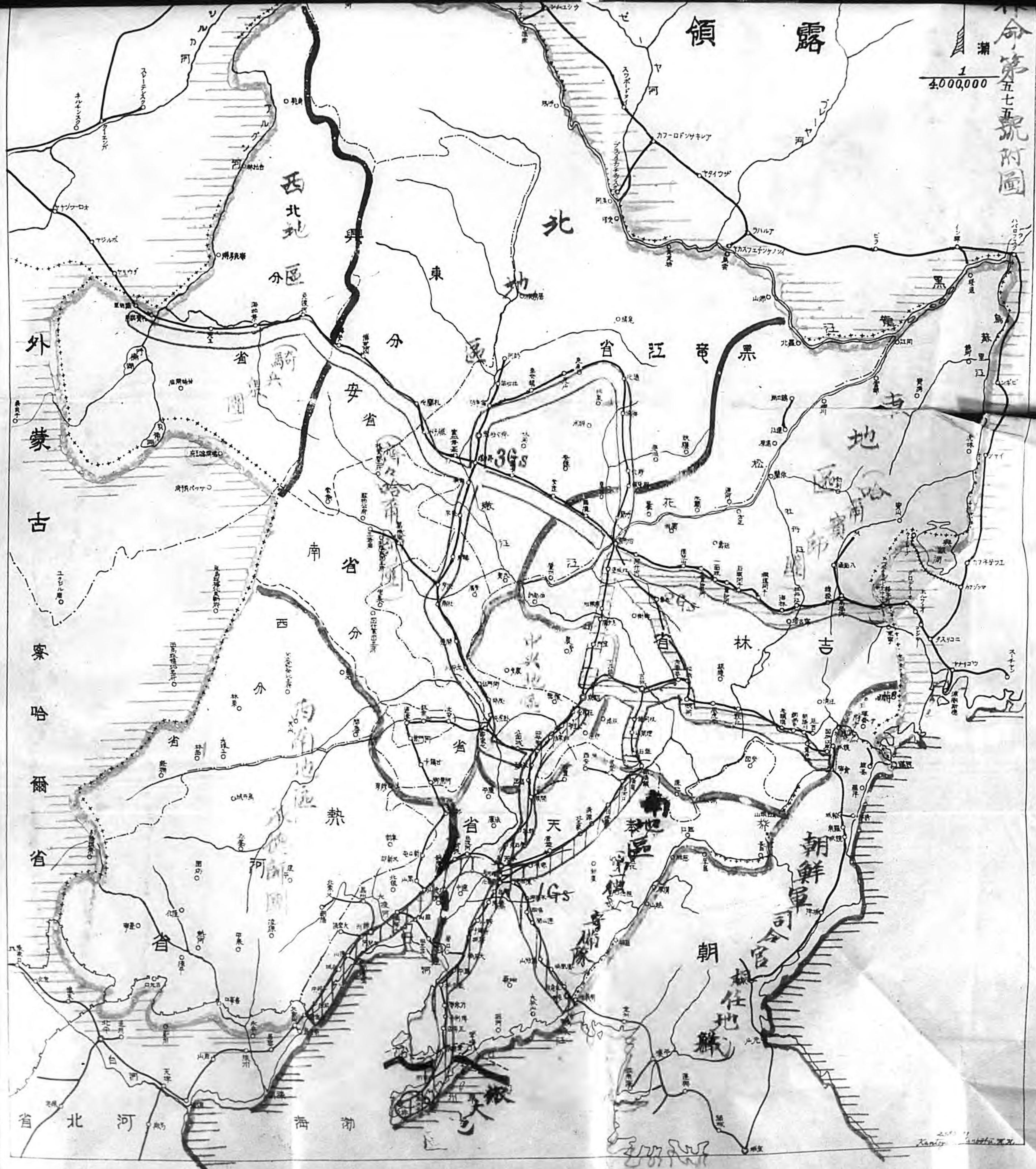
古

察 哈 爾

省

命第五號附圖

1
4,000,000



領露

北

西北地
分區

外蒙
古

察哈爾
省

省北河

東地

安省

南省

熱

省江竜黒

黒

地

省林吉

朝鮮

朝

任地

縣

3Gs

4Gs

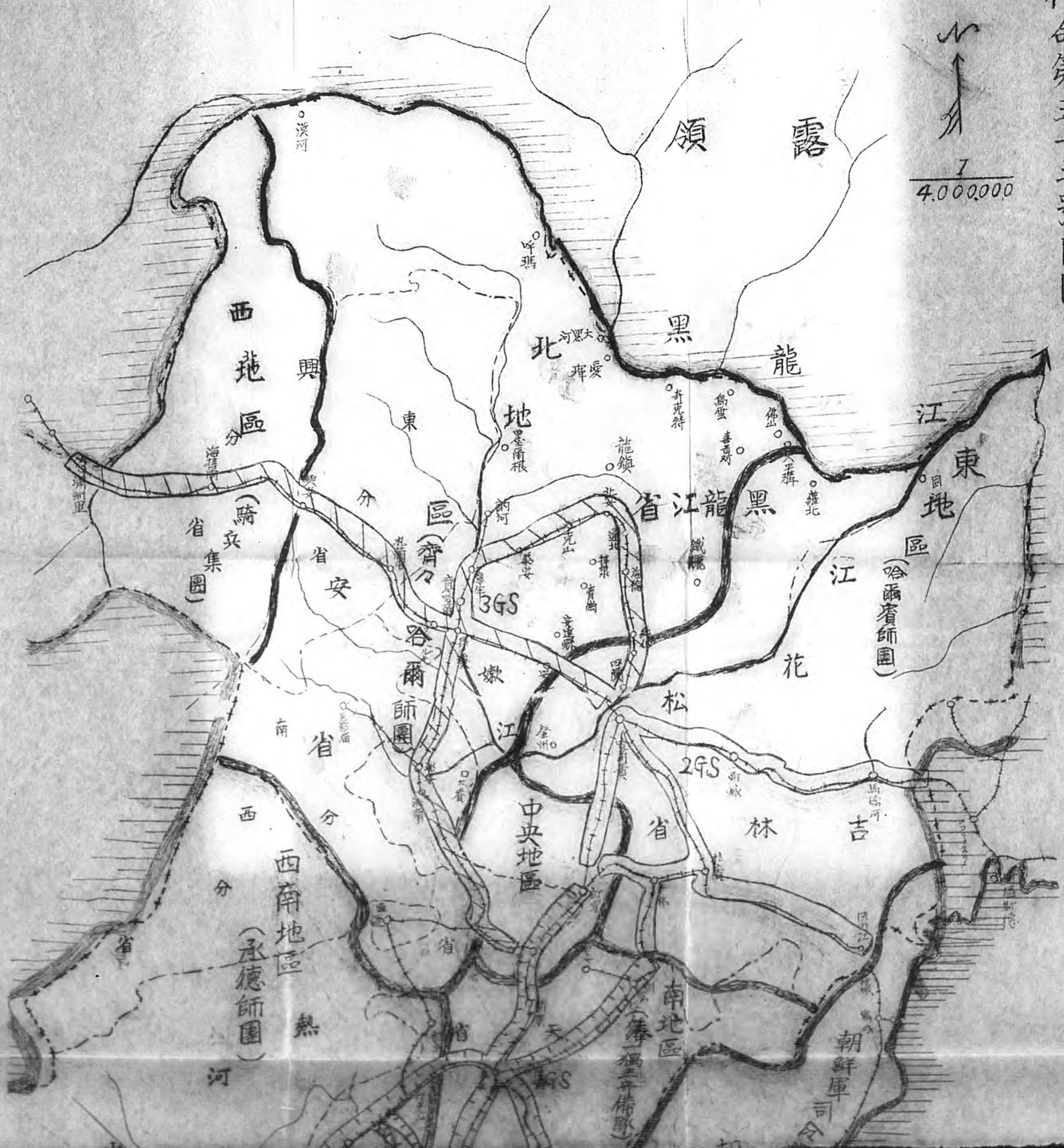
1Gs

青

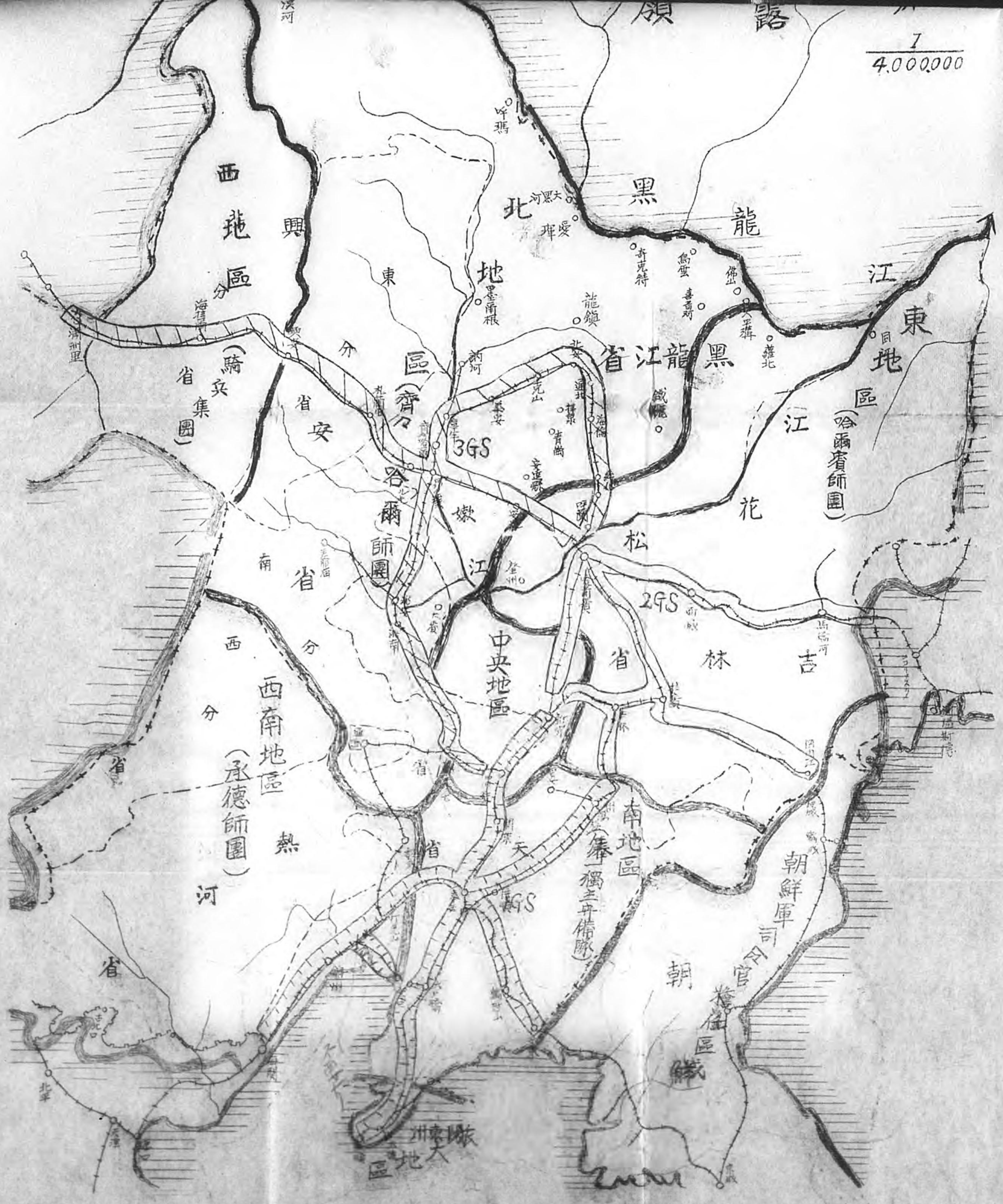
魯

Handwritten signature and date at the bottom right corner.

關作命第五七五號附圖



1/4,000,000



8

副官部	謀参下	謀参甲	長謀参	長國師	任主
		馮	濱	起	

關作命第

五七二號

極秘

關東軍命令

三月三日 午前八時
於新京軍司令部

一大命ニ依リ鐵道聯隊ヲ交代セ

シメラル

二鐵道第三聯隊ハ滿洲ニ到着セ

ハ其主力ヲ以テ鐵嶺ニ各一部

ヲ以テ哈爾賓及奉天ニ位置ス

ヘシ

同聯隊ノ練成ニ關シテハ鐵道

第一聯隊ニ與ヘタルモノヲ

遣派
部令司團師七第
9.3.4
付受通普

承スヘシ
鐵道第一聯隊
鐵道第三聯隊

ノ到著ニ伴ヒ
東經由其編成地ニ歸還スヘシ
鴨綠江通過ノ時ヲ以テ予ノ隸
下ヲ脱スルモ

關東軍司令官
菱川大將

下達法ニ連絡者ニ手交、正電報、後印刷送付

通報先

内長 D D D D K K 9S 9S 9S A A A A 3TL 3TK FM 自警司要放犬鴉区為旅旅庫院
部次 8 10 4 7 K I 9S 9S 9S A A A A 3TL 3TK FM 自警司要放犬鴉区為旅旅庫院
原田野校奉熱吉有朝海
源多管岩奉熱吉有朝海

師團長	參謀長	參謀甲	參謀乙	參謀	副官部	主任
馬	馬					

關作命第五六四號其二

關東軍命令

二月八日午後一時
於新京軍司令部

第七師團長八軍司令部調查業務
補助、為三原步兵大尉ヲ二月中
旬軍司令部ニ派遣スヘシ

關東軍司令官 菱刈大將

下達法

加電報後印刷送付

配布先

加軍副官部第二課

印



乙

師團長	參謀長	參謀	副官	司令部	附部
-----	-----	----	----	-----	----



電報翻譯用紙



電報

翻譯者



昭和九年二月十九日 午前六時五分

宛 發信者 宛 發信者

着信番號 33 22 25

師團長 宛 發信者 軍司令部

本文

關參電三四二其一二三

關作命第五六八號

關東軍命令

二月十九日午前九時
於新京軍司令部

第十、第十四師團長及第二獨立守備隊司令部ハ
現在海員施中ノ掃匪行動ノ進捗若シハ終下ニ
伴ヒ關作命第五五八號ニヨリ配屬セシムル
諸部隊其ノ他ヲ夫々原所屬ニ復歸セシムル
精ニ岩里參謀ハ可成速ニ又自動車隊ハ本月
未迄ニ新京ニ歸還セシムル

日誌ニ記載

陸軍

電報

翻譯者

昭和 年 月 日 午前 午後 時 分 時 分

宛發信者

發着番號

旅團長 參謀 副官 司令部 附

本文

一、關東軍自動車隊長ハ三月三日迄ハ
 自動車中隊ヲ朝陽附近ニ派遣シ、
 及第八師團ノ交代ニ伴フ諸輸送ヲ援助セシム
 三、關作命ヲ第五八號第八項ニ依リ關東軍
 飛行隊長及ビ關東軍憲兵司令部官ノ任務ハ
 二月末ヲ以テ之ヲ解除ス
 四、關東軍鐵道線區司令官ハ前諸項ニ基キ
 鐵道輸送ヲ處理ス
 下達法 第十師團ニ獨ニ電報後印刷送付ス

陸軍

5
号

副官部	(任主)			
	師團長	參謀長	參謀	乙

關飛作命甲第六九一號

極秘

關東軍飛行隊命令

二月十日午前十一時
於新 京

大命ニ依リ混成第十四旅團及第
八師團ハ凱旋シ新ニ第七師團ヲ
滿洲ニ派遣セラル
之カ爲混成第十四旅團長ハ二月
十三日又第八師團長ハ三月十一
日夫々現任勢ヲ第七師團長ニ委
壞シ其隸下部隊ヲ以テ京圖線經



由各々編成地ニ歸還シ第七師團
長ハ其隸下部隊ヲ以テ速力ニ錦
州及熱河方面ニ到リ彰武縣黑山
縣台安縣盤山縣以西ノ奉天省及
熱河省ノ治安維持同地域内ニ於
ケル鐵道及重要通信施設ノ保護
並之カ工事掩護ニ關スル混成第
十四旅團長及第八師團長ノ現任
務ヲ繼承シ特ニ古北口馬蘭峪及



建昌營等長城附近ノ要點ニ一部
ノ兵力ヲ配置シ支那側停戰協定
遵守ノ情況ヲ監視スル等
二飛行第十大隊ハ右部署ノ變更ニ
伴ヒ從來ノ任務ノ外在錦州部隊
ヲ以テ第七師團ノ作戰及治安警
備ニ協力スヘシ又從來ノ任務中
混成第十四旅團及第八師團ニ對
スル協力任務ヲ解除ス

關東軍飛行隊長 佐野少將

傳達法 電報後印刷配布

電報翻譯用紙

電報

昭和九年三月五日

午前

九時

五分

翻譯者

阿部

着

番號

36

師團長

宛

發信者

關東軍司令部

本文因參電由四二

關作命第五六四號其二

關東軍命令

二月一日午後一時

新東京軍司令部

第七師團長、軍司令部調査業務補助ノ為三原步

兵大尉ヲ二月中旬軍司令部ニ派遣ス可シ

關東軍司令部官 菱村 大將

下達法電報後印刷送付

陸軍



150
村

養

生



6

4



極秘

關東軍第五六八號

關東軍命令

二月十九日午前九時
於新京軍司令部



一 第十第十四師團長及第二獨立
 守備隊司令官ハ目下實施中ノ
 剽匪行動ノ進捗若ハ終了ニ伴
 七關作命令第五五八號ニ依リ配
 屬セラレタル諸隊其他ヲ夫々
 原所屬ニ復歸セシムヘシ
 特ニ若畔參謀ハナルヘク速ニ
 又自動車隊ハ本月末迄ニ新京

二 歸還セシムヘシ

六 關東軍自動車隊長ハ三月三日迄ニ少クモ自動車一中隊ヲ朝陽附近ニ派遣シ第七及第八師團ノ交代ニ伴フ諸輸送ヲ援助セシムヘシ

三 關作命第五五八號第八項ニ依ル關東軍飛行隊長及關東憲兵隊司令官ノ任務ハ二月末ヲ以

航放
山路
倉庫
軍豫
多隊
管日
哈野
奉核
原核
吉核
育核
朝軍
海軍

軍事機密

開參一發第七師

滿洲派遣第七師團編成派遣第八師團並混成
第十四旅團、歸還、復歸ニ開スル規定

昭和九年一月二十日
開東軍司令部調製

開參一發第七〇號

滿洲派遣第七師團編成派遣第八師團並混成
第十四旅團、歸還、復歸、開大規是、件、達

關係各部隊

首題之件、開之別冊、通定、

昭和九年一月二十日

關東軍司令官

菱刈

隆

滿洲派遣第七師團編成派遣第八師團並混成
第十四旅團、歸還、復歸ニ關スル規定

第一條本規定ハ滿洲派遣第七師團編成派遣第八師團並混成等
第十四旅團、歸還、復歸要領、同細則以下要領同細則ト畧称スニ基キ必要

ナル事項ヲ規定ス

第二條第八師團長及混成第十四旅團長ハ細則第十一條ニ依リ
滿洲ニ於テ除隊セシムヘキ者ノ編入希望部隊ヲ是ニ連ニ
軍司令官ニ申請スルモノトス

第三條細則第十二條ニ依リ關東軍衛生機關ニ殘置スヘキモノニ
付テハ同條ノ規定ニ依リ軍司令官ニ報告スルモノトス
軍法會議ニ於テ審議中ノモノハ之ヲ殘置シ前項ニ準シ
報告スルモノトス

第四條歸還及復歸部隊ハ適宜先発者ヲ派遣スルノ外引
繼爲必要最以限ノ人員ヲ殘置スルコトヲ得

前項ニ依リ派遣又ハ残置スヘキ人員(残置スヘキ期間共)
ハ成ルヘク速ニ軍司令官ニ報告スルモノトス

第五條第八師團長ハ歸還ノ爲過剩トナル日本馬中軍用ニ
堪エサルモノハ賣却處分シ軍用ニ堪フルモノハ内細則第
八條ニ基キ第七師團ノ數馬數(馬數ハ別ニ示ス)ヲ現地ニ於
テ第七師團長ニ交付シ其他ノ二百五十頭ヲ清津ニ輸送シ
朝鮮軍司令官ニ交付スルモノトス

前項以外ノ日本馬ハ新京ニ輸送シ關東軍臨時病馬
廠長ニ交付スルモノトス

交付ノ細部ニ關シテハ軍獸醫部長ヲシテ指示セシム

第六條混成第十四旅團長ハ歸還ノ爲過剩トナル日本馬ニシテ
軍用ニ堪エサルモノハ賣却處分シ然ラサルモノハ新京ニ輸
送シ關東軍臨時病馬廠長ニ交付スルモノトス
第七條第七師團ノ假是數馬ハ是數ハ八百頭トス

師團内各部隊ノ是数ハ師團長ニ於テ之ヲ是々軍司令官ニ報告スルモノトス

第八條第八師團長及混成第十四旅團長ハ是数内滿洲馬及假定数馬中軍用ニ堪エサルモノハ賣却處分ニ假定数馬中ヨリ左ノ如ク現駐地ニ於テ第七師團長ニ交付シ残余ハ新京ニ輸送シ關東軍臨時病馬廠長ニ交付スルモノトス

第八師團

六百頭

混成第十四旅團

二百頭

第九條第八師團及混成第十四旅團ハ前各條ニ依ル馬匹交付ニ方リテハ馬匹名簿及交付馬連名簿ヲ添ヘ各馬ニ識別ヲ容易ナラシムル為頸札ヲ附スルモノトス

第十條歸還復歸部隊ハ日本馬以外ハ馬、騾、驢ヲ内地ニ携行スルコトヲ得ス

第十一條 第八師團及混成第十四旅團ハ前各條ニ依リ馬匹ノ整理ヲ了ラハ速ニ其情況ヲ軍司令官ニ報告スルモノトス

第十二條 歸還復歸部隊ノ有スル軍用鳩及鳩舎(以內地ヨリ携行セシモノヲ除ク)ハ凡テ現驻地ニ於テ第七師團ニ引継クモノトス

第十三條 返納又ハ引継クヘキ戰用諸品ハ左記各號ニ依リ處理スルモノトス

一、兵器及材料

兵器及材料ハ別ニ示スモノ、外左ノ如ク區分シ混成第十四旅團ハ錦州又ハ奉天ニ於テ第八師團ハ承德朝陽又ハ奉天ニ於テ開東軍野戰兵器廠ニ返納スルモノトス

一、開東軍ヨリ交付ヲ受ケタル兵器(派遣ニ際シ内地ヨリ

携行セル兵器及昭和七年陸滿機密第九〇號兵器表ニ依リ保管セル兵器ノ亡失毀損代品トシテ交付ヲ受ケタルモノヲ除ク)

2. 三年式機關銃高射要具及自動車全數、混成旅團ノ無線通信器材

3. 彈藥(個人裝備用銃彈藥及小銃、機關銃彈藥箱ヲ除ク)ノ全數

4. 材料及燃料、殘數

5. 再用材料

歸還又ハ復歸スヘキ各部隊ノ携行スヘキ兵器中ニ亡失毀損品ハ補充交換ヲ行ハサルモノトス

但シ其情況ヲ調査シ品目、員數ヲ軍司令官ニ報告スルモノトス

押収兵器中歸還各部隊ニ於テ参考又ハ記念

爲携行希望ノ兵器ハ其目的、品目、員數、名稱、程度、兵器ノ經歷、自隊ニ於テ現在保管ニアル數等ヲ明記ニ成ルハク速ニ軍司令官ニ申請スルモノトス

但シ右記器械ハ第八師團及混成第十四旅團ヨリ

第七師團ニ引継クモノトス

(一) 給水調査用器械 (八年九月開兵_二第五八四、一五八五_一班_一)

(二) 部隊氣象器械 (八年九月開兵_二第五六八_一班_一)

返納日次、場所等ニ開シテハ相互協定スルモノトス

二 被服、糧秣、物品、土地、建造物

一、派遣部隊ハ鉄帽ノ所要數及寢具、特殊被服ノ不足

數ヲ關東軍司令部ニ請求シ補給ヲ受クルモノトス

二、歸還、復歸部隊ハ派遣ノ際携行セルモノ及派

遣後留守隊ヨリ追送セルモノ以外ノ被服(歸

還輸送途中必要ノモノヲ除ク糧秣給養器具陣營具練習用具其他一切ノ物品並現ニ保管又ハ使用中ノ土地建造物ハ交代部隊又ハ最寄部隊ニ引継クモノトス

但シ前項ニ依リ難キモノハ師團長又ハ混成旅團長ニ於テ適宜處理スルモノトス

細部ニ關シテ軍經理部長ヲシテ指示セシム

3. 引継ヲ爲スヘキ土地建造物ノ受授ハ總テ現地ニ於テ受領證ヲ以テシ所要ノ圖面ヲ添付スルモノトス

前各號ニ依リ引継又ハ處理シタル物件ノ品目員數(程度區分アルモノハ之ヲ明示ス)ハ處置終了後速ニ軍司令官ニ報告スルモノトス

三 衛生材料

一 細則第三十八條ノ規程ニヨリ交付スル衛生材料
ハ其品目、數量ヲ調査シ速ニ報告(三通)ヲ
軍司令官ニ提出スルモノトス

ニ 其他ノ細部ニ開シテハ軍軍醫部長ヲシテ指
示セシム

四 獸醫材料、蹄鐵

一 歸還、復歸部隊ノ獸醫材料及蹄鐵ニシテ取
遣後交付ヲ受ケタルモノ(定數内ノモノヲ除ク)ハ
其品目、員數表ヲ附シ成ルハ各部隊毎ニ取
纏メ奉天ニ於テ關東陸軍倉庫(已ムラ得サレ
ハ朝陽支庫)ニ返納スルモノトス
但シ歸還途中ニ要スル材料ハ携行歸還後
返納スルコトヲ得此ノ場合ハ其品目、員數ヲ軍
司令官ニ報告スルモノトス

之歸還復歸部隊ノ派遣後交付ヲ受ケタル裝蹄剔
毛器械ハ現駐地ニ於テ第七師團ニ引継クモノト
ス

前各號ニ依リ返納及引継ヲ完了セハ其品目員
數ヲ軍司令官ニ報告スルモノトス

五 機秘密圖書、戰用地圖

一 歸還復歸部隊ノ機秘密圖書中派遣後軍
司令官部ヨリ配布ヲ受ケタルモノハ總テ(有番號共)
師團(混成旅團)司令官部ニ於テ取纏メ陸軍機
密(秘)密書類取扱規則様式第五ノ目錄ニ通
ヲ添ヘ軍司令官部ニ返納スルモノトス

之 戰用地圖(解秘地圖ヲ含ム)ハ附表第三様式
ニ依リ返納目錄ニ通ヲ添ヘ軍司令官部ニ返納
スルモノトス

但シ其ノ隸下部隊中便宜上直接軍司令部ヨリ配布ヲ受ケタルモノハ各部隊毎ニ返納目錄三通ヲ添ヘ師(混成旅)團司令部ニ返納セシメ師(混成旅)團司令部ハ之ヲ取纏メ軍司令部ニ返納スルモノトス

3. 紛失誤燒・消耗等ノモノアラハ返納目錄ニ準シ理由ヲ明記セル目錄ヲ作製シ報告スルモノトス

4. 第七師團ハ其携行セル機秘密書類ノ保管目錄ニ通ヲ陸軍機(秘)密書類取扱規則第五十九條ノ規定ニ依リ提出スルモノトス

5. 軍司令部ヨリ交付スヘキ機秘密書類並戰用地圖ハ師團司令部滿洲到着後逐次交付ス
第十四條 第七師團ノ派遣・混成第十四旅團及第八師團ノ

歸還輸送ノ概要ハ附表第一ノ如シ

第十五條派遣及歸還、復歸部隊ノ朝鮮及滿洲内鐵道輸送ハ開東軍鐵道線區司令官之ヲ處理スルモノトス

又前項部隊ノ滿洲内輸送途中ニ於ケル宿營給養ハ開東軍兵站司令官之ヲ担任スルモノトス

第十六條歸還復歸部隊ノ歸還輸送ハ朝鮮及滿洲内ノモノニ在リテハ直接開東軍鐵道線區司令官ニ船及内地鐵道ニ在リテハ軍司令官ニ細則第四十三條ノ要領ニ依リ速ニ請求スルモノトス

軍司令官宛ノ輸送請求表ハ四部トス

第十七條第二獨立守備隊司令官ハ京岡線輸送途中ニ於ケル給養ヲ實施スル爲ニ各地ニ給養委員ヲ編成配置スルモノトス

其編成ハ附表第二ノ如ク給養食實施ニ關シテハ
關東軍兵站司令官ノ區處ヲ受ケシムルモノトス

吉林 敦化 圖們

第十八條 歸還人馬ハ別ニ示スモノ外ハ錦州及津^清ニ於

テ檢渡ヲ實施ス其細部ニ關シテハ關係軍各

部長ヲシテ指示セシム

第十九條 歸還復歸部隊ノ有スル恤兵品ノ引継ニ關

シテハ軍管理部長ヲシテ指示セシム

附表第一

交代輸送概見表

備考	第八師團半部	第八師團半部	第七師團半部	混成第十四旅團	第七師團半部	部隊
一朝鮮及滿洲内鉄道輸送ハ本輸送ニ連接スル如ク實施スルモノトス			清津		清津	上陸地
			三月五日		二月八日	上月陸日
	清津	清津		清津		乘船地
	三月三十一日	三月十八日		二月十九日		乘船月日

附表第二

給養委員編成表

階級	人員	員
特務曹長	長	一
軍曹 (伍長)		二
計手		一
看護長		一
上(二)(三)等兵		五
計		一〇

備考

一、看護長ハ新京衛戍病院ヨリ一(吉林)其他ハ拉法衛戍病院ヨリ差出スモノトス
 二、軍曹(伍長)各一名ハ關東軍兵站司令部ヨリ差出スモノトス
 三、本表ノ外必要ニ應ジ所要ノ人員ヲ増加スルコトヲ得

附表第三

戰用地圖返納目錄

昭和 年 月 日

混成第十四旅團司令部印

備考	東亞五十分一				錦州號			滿洲十萬分一	梯尺總圖名	地圖 番号	部 數	摘 要
	北 京	奉 天	黑 山	錦 州	營 口	双 台 子	打 虎 山					
用紙 半紙 罫紙 トス	二〇〇	八〇	一〇〇	一〇〇	一六〇	一五〇	一五〇					
					誤燒紛失等ニ關スル理由 ハ本欄ヘ記入スルモノトス							

極秘

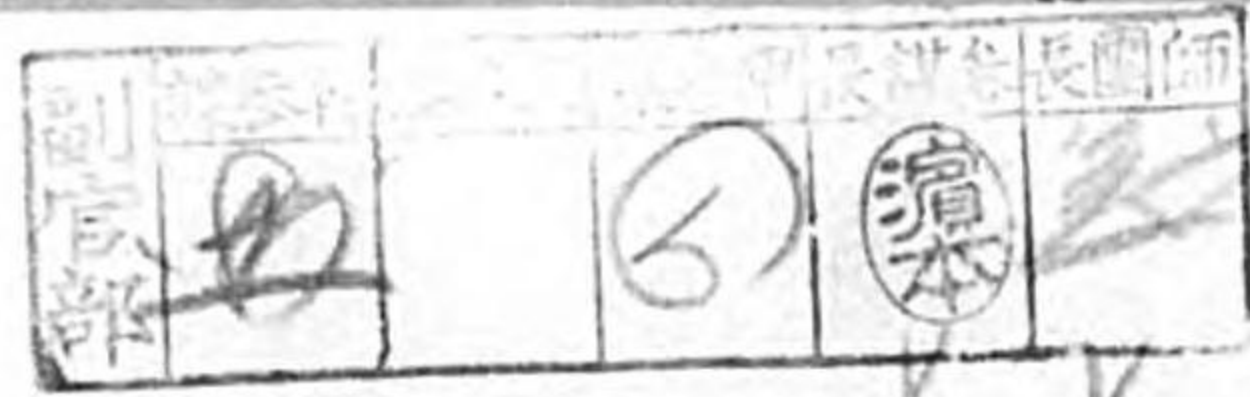
關東軍第六四六號

關東軍命令

二月十二日正午
於新京軍司令部

派遺
第七師團司令部
• 10. 2. 14 •
普通受付

一 獨立混成第十一旅團ヲ滿洲ニ派遣セラル之ニ伴ヒ第七師團ノ内
 二 軍ハ右兩兵團ノ交代並爾他ノ狀況ニ基キ軍内兵團配置ノ一部ヲ變更セシトス
 三 獨立混成第十一旅團ハ第七師團ト交代シ旅團司令部ヲ承德ニ置



キ關作命第六二六號（昭和九年十
一月十八日發令）ニ據ル第七師團
ノ任務ヲ繼承スヘシ
防衛ニ關スル責任轉換ノ時機ハ
第七師團長承德出發ノ時ト定ム
交代實施ハ細部ニ關シテハ特ニ
示スモノ外第七師團ト直接協
定スルヲ要ス
四
第七師團ハ現任務ヲ獨立混成第
十一旅團ニ引継キ内地衛戍地ニ

合テ鐵ニ第五
 合ハ道移四
 ト之ヲ駐獨
 松ヲ滿シ立
 花合洲哈守
 江マ國爾備
 (哈)ス側ハ隊
 爾接ニ東
 賓收接綏
 ヨト以芬防
 リ共前河衛
 下ニ前鐵地
 流之ニ道區
 トヲ於該內

スヲ以テ予ノ
 隸下ヲ脱ス
 ルモノト
 日滿國境通
 過若ハ大連
 出發ノ時
 示ス
 歸還スヘシ
 輸送ニ關シ
 テハ別ニ

二ヨリテ堺セララルル地域内ニ於
 ケル諸鐵道(右記ノ鐵道ハ哈爾濱
 驛ヲ含ミ其以東又本地域内ニ於
 ケル拉賓及賓北線ヲ含マズ)並重
 要通信施設ノ保護及之等ノ新設
 工事掩護ニ任スヘシ
 守備隊移駐ノ開始ハ三月十五日
 ヲリトシ新ニ保護ヲ擔任スヘキ
 鐵道ト上ニ從來配置セララルル部
 隊トノ交代等ノ細部ニ關シテハ

第二獨立守備隊及第三師團卜直
 接協定スルヲ要ス
 第四獨立守備隊司令部ハ牡丹江
 (駐屯地名)ニ位置スヘシ
 第六第三師團ハ第四獨立守備隊ノ哈
 爾賓一綏芬河鐵道上部隊配置ニ
 伴ヒ該鐵道交通維持ノ任務ヲ解
 除セラレ其配置終了ト共ニ從來
 配屬セラレタル夕ル装甲列車及
 軌道車ヲ第四獨立守備隊ニ轉屬

スヘシ
第七第二獨立守備隊ハ第四獨立守備
隊ノ移駐ニ伴ヒ牡丹江一綫芬河
鐵道以北ニ配置セシ兵力ヲ撤去
シ從來ノ任務(東地區内)ニ於ケル
新設鐵道及重要通信施設工事ノ
掩護ヲ解除ス外寧北驛ヲ含マ
ス一圖們鐵道及新京一洮安鐵道
兩端ノ驛ヲ含マズ並哈爾濱一新
京鐵道ノ滿洲國側ニ接收ト共ニ

該鐵道(兩端ノ驛ヲ含マズ)ノ保護
= 任スヘシ
新 京 一 洮 安 鐵 道 上 ノ 部 隊 配 置 ハ
四 月 十 日 迄 = 完 了 ス ル ヲ 要 シ 從
來 ノ 配 置 部 隊 ト ノ 交 代 等 ノ 細 部
= 關 シ テ ハ 第 三 獨 立 守 備 隊 ト 直
接 協 定 ス ル ヲ 要 ス
第 二 獨 立 守 備 隊 司 令 部 ハ 三 月 末
日 迄 = 吉 林 = 移 轉 ス へ シ
八 第 三 獨 立 守 備 隊 ハ 洮 安 一 新 京 鐵

道ノ保護ニ關シ第二獨立守備隊
ト交代シ從來ノ任務ノ外哈爾賓
非滿洲國側ニ接收
ト共ニ該鐵道(哈爾賓驛ヲ含マズ
其以西ノ保護並北及西北防衛地
區内ノ新設鐵道重要通信施設ノ
掩護ニ任スハシ

關東軍司令官 南 大將